（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2271100568		
法人名	社会福祉法人　信愛会		
事業所名	グループホーム　和みの家		
所在地	静岡県沼津市大平1538-1		
自己評価作成日	平成　23年　11月　1日	評価結果市町村受理日	平成24年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2271100568&SCI

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5－8　マルシメビル6階
訪問調査日	平成23年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

みんなで一緒に生活していることが感じられ、自分らしく暮らせる場所で在り続けられるよう支えていくことを目指している。
又、家族・地域の方々が訪問しやすい雰囲気づくりと働きかけを心がけ、地域の保育園・幼稚園・老人会・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱとの交流を通して様々なつながりの中で暮らしていることが実感できる日常になるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人内にある特別養護老人ホームやデイサービスと隣接され、安心感のある場所に事業所はある。利用者は食事を作る、盛る、片づけることをはじめ、洗濯物や畑などの仕事において、其々がしたいことを嬉々として取り組んでいる。また、保育園や老人会の交流やボランティア訪問が日常的にあり、会話や歌・ゲームなどのやりとりから刺激を受けている。このように残存機能を活かし、外からの刺激ある暮らしが提供されているため、利用者の表情は豊かで発語も多い。母体である特養の経験や仕組みを活用でき、ゆとりあるケアに取り組んでいるが、本年は「和綿づくり」「看取り」など、初めてのことにもチャレンジしている。看取りは、日々のケアの質について危惧されたものの、利用者や家族から「ありがとう」との言葉をもらえ、職員の精神面の成長にも繋がっている。

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちはご利用者と共に生き生きと支え合って暮らしていきます」を事業所理念として事業計画を策定し実践に努めている。	理念が実践に繋がるよう、事業計画の中に位置づけている。また、その進捗や成果については、サービス向上委員会にて精査していて、実現への仕組みも確立されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園・幼稚園・老人会との交流会を開催している。また、地域の方による書道教室の定期的な開催で交流している。	開所から10年を迎え、地域交流は年間行事として取り組めるほどメニューが増えている。また、「タオルが足りない」という声が地域に届いたことで、持ち寄ってくれるなど、近所づきあいのような関係も頻繁になってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、沼津市GH連絡協議会の役員を務め、市と連携しながら活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回推進会議を開催し、活動報告や行事参加の誘い・出席者からの情報提供を議題としている。サービスの実際や取り組み・質疑応答等で、出席者の意見を聞き、サービス提供に取り入れている。	公立保育園・幼稚園・老人会からや介護相談員など多様な分野から、参加者を募っている。書面でご案内し、時には直接届けたり電話を入れている。多様なメンバーである一方で、大平地区というキーワードでまとまっていて、意見交換が活発であることが記録からも視認された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議には市の担当者が出席することもあり、運営推進会議後は議事録を持参しながら情報交換している。また、GH連絡協議会・連絡会に出席し市と連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。	敷地内で多種の介護保険事業を運営していることもあり、関係基盤はできている。グループホーム連絡協議会ならびに連絡会にも出席するように努めている。運営推進会議の議事録も直接届け、顔を合わせる機会を作るよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針・マニュアルを定め、サービス向上委員会で身体拘束対象の行為について話し合っている。玄関は夕食後までは施錠せずに利用者・訪問者が出入りしている。	所内で運営するサービス向上委員会を中心に「身体拘束における行動抑制」を機会ある度に確認し、知識共有している。また、訪問時も外へ出たい想いのある利用者へ配慮のある適切な対応ができていることを視認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法・職員としてのｹｱのあり方等を内容とした施設内部研修会に参加し、専門職としての意識を高めるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	沼津市主催の権利擁護研修会に職員が参加し、施設内部研修に事業所職員が参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結及び解約については、充分な説明を行い、双方が納得したうえで、署名・捺印を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。地域運営会議や家族の面会時に意見･要望を聴いている。介護相談員が毎月来所した際は、利用者との会話を通しての気づき等を話し合っている。	ステンシルで全利用者の居室名札を手作りくださった家族もいる。一人ひとりに好きな色や花を聞き、作製くださったとのことで、日頃の関係の深さが覗える。敬老祝賀会などの行事には大半の家族が集うため、家族同士ヨコのつながりもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ｻｰﾋﾞｽ向上委員会を毎月開催し、事業所運営に関して職員間で協議している。事業所で解決できない課題については、管理運営会議や各種委員会で検討しながら改善に取り組んでいる。	業務手順や感染症対策などについて、職員で話し合い手順書やマニュアルを改善向上していくことが普段の業務に位置づけられてる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い公正かつ適正に評価し、処遇に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・事業所内の研修は各職員が参加している。また、外部の研修についても参加の機会設定に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会･グループホーム連絡会への参加を通じて情報交換･交流をはかっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のニーズの把握に努め、初期プランにつなげている。又、家族と連絡しながら本人が安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安･要望等の情報を得ることで、家族の安心が得られ、今まで築いてきた利用者との関係が今後も良好に保てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人からよく話を聴いたうえで、その時の実情や要望にふさわしい支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所理念「共に支えあう暮らし」を利用者尊重を基本としたケアに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に、家族に相談を持ちかけたり、協力を呼びかけることで、職員と家族が共に本人を支えるようにしている。毎月の近況報告を通して現状を伝え、家族の協力･理解が得られるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、馴染みの人・場所との交流を継続している。	利用者は家族への想いが強いため、家族を通して日々の想いが実現できるよう支援している。絵を描いたり、縫物をしたり、在宅の頃の趣味を続ける利用者もあいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々が生活の中で出来ることを行う事で共に暮らしを支えている認識が持てるように配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族が訪問し利用者と近況を話している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で一人ひとりの希望や暮らし方についての意向を聴いたり、思いが察知できるように努めている。	空間としても遮るものが少なく、職員が全体を見渡せるよう構造になっている。また、日常的に家庭生活の作業を供にしていることでも、表情や利用者同士のやりとりを把握している。アセスメントもプランの更新時にすべて取り直している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から話を聞いたり、日常の関わりの中から把握するなどにより、アセスメントシートを作成、活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時々の本人の心身の状態に合わせた生活のペースを尊重している。又、経過記録を通して職員間で情報を共有し、その時に合わせたケア変更に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者との日常の会話や家族の面会時に生活の様子を話し合うことで生活の中の課題を見つけるようにしている。ケアプラン作成時にはケア会議を開き、本人・家族を含め検討している。	全職員でモニタリングし、話し合いを重ね、連携して全ての利用者にあたっている。また、ケアマネージャーが計画作成を兼務していて、管理者が確認し厚みのあるプラン作成が成されている。今後はセンター方式も採用する予定でいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたケアの実践や気づき等を経過記録に記入し、それに基づきアセスメントやケアプランの見直し・変更をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養・ショート・デイサービス・ケアハウス・居宅等の多機能性を生かし、各種会議・行事等の共有や、緊急時対応の協力体制をとっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会・保育園・幼稚園や地域のボランティアによる書道教室で交流をもっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者･家族の希望する医療機関への受診を支援している。受診連絡票にて情報を共有するなどにより、医師と連携をとっている。	往診が月２回あり、訪問看護も利用している。日頃の心身の様子を「受診対応時の連携記録」において書面で医師に伝え、判断をより的確にしてもらえるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション「うしぶせ」と医療連携しており、定期訪問時に相談したり、アドバイスを受けている。利用者がかかりつけ医に受診した結果や健康診査の結果を報告して情報共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、頻会に面会し看護師からの情報を得て家族と連携しながら利用者の状態把握を行った。又、退院時は家族･主治医･訪問看護師と連携し、以前の生活状態に戻れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する指針を定めている。主治医の看取り期に入っている旨の状態説明(5/18)を受け、家族の意向を確認し、医療との連携を取りながら看取り介護を実施した。	家族の意向に応え、本年初めて看取りに携わっている。毎日のケアの質が心配されたものの、家族・医師・職員で連携して取り組むことができた。今後も家族の意向があれば、支援したい考えでいる。	職員のメンタルケアを含む教育やADLが低下した際の用具的な備えについて、さらに推進されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新規採用の職員も救命救急講習に参加し、急変時に対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の防災計画･防災ﾏﾆｭｱﾙに則り利用者も参加した防災訓練を実施している。水害発生時の対応ﾏﾆｭｱﾙを改訂し事業所の行動ﾏﾆｭｱﾙを整えている。	道具の使い方、夜間想定など様々な設定を月替わりで準備し、毎月訓練に取り組んでいる。水災害のある地域であるため、水害対応には重点的に取り組んでいることが、書面から確認できた。また、家具の固定などについても備えを視認した。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩としての敬意を持って接するよう心がけている。	基本的には名字で呼ぶことになっている。理念がケアに繋がっていて、相手を尊重する対応が職員に身についている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを十分に聞いたり、納得できるまで話し合う中で、常に自己決定が出来るよう関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に、一人ひとりのペースや希望を尊重し、出来る範囲で要望に応えられるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりが好みのおしゃれを楽しめるよう支援している。。整容の乱れ等は、本人のプライドを大切に考え、対応している。外出や行事にあった服装を自分で選べるよう、声をかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食材の下ごしらえ･味つけ等、得意なことを行ってもらっている。また、食後の後片付けはできる範囲で自分で行い、できないところは一緒に行っている。	献立づくりから片づけまで利用者と職員で協働している。畑で採れたサツマイモでスイートポテトを作り、運営推進会議の参加者に配ることもしていて、利用者と職員で一緒になって食べることへの多様な喜びを創っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの身体状況、健康状態に合わせ、調理･盛り付けを心がけ隣接の栄養士が献立表のチェックをしている。毎日の水分摂取量も把握し健康管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは各々の状態や出来ることに合わせて行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しながら状態に合わせた検討を行い、ﾄｲﾚでの排泄が継続できるよう支援している。又、本人の動作能力を活かしながらｹｱするよう心がけている。	昼夜トイレ誘導に取り組み、トイレで行ってもらえるよう支援している。利用者の癖や特徴を把握し、タイミングのよい誘導を実践している。ただし、変化があった場合は、「どのような介助であればいいのか」を適切に判断していくために、個々にフロ―シートをつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のﾒﾆｭｰは食材のバランスに考慮し、雑穀ブレンドを米に炊き込んだりと工夫している。水分量の確保・家事の中で出来ることを行うことでの運動を勧め、自然排便への取り組みをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて入浴できるよう支援している。また、気持ちよく入浴できるよう声がけ・タイミングを工夫したりしている。	希望があれば毎日入ることができるが、職員は本人体調などを考慮し、負担も検討し対応している。時間帯は夕方で、できるだけ在宅の生活に近い状態をつくるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者は自分の心身の状態に合わせて自由に居室で過ごしている。夜間は、睡眠パターンを把握することにより、利用者のペースに合わせた入眠促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握した上で服薬管理をしている。服薬介助マニュアルに従い、確実に服薬できるようにしている。症状の変化等、常に医療との連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態により、その時に出来ることを把握し、役割として行えるように努めている。書道や音楽リハビリを取り入れたり、各々の趣味を継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と一緒に戸外に出られるように努めている。また、近隣の保育園や幼稚園との交流を持ち、出かけることもある。家族とも自由に外出・外泊している。	ドライブや遠方への外出はしていないが、立地的に事業所内で季節が十分感じられる環境にある。外出は主に家族にお願いしていて、職員が付き添うのは保育園・幼稚園との交流やハーモニカコンサートの参加などがある。	家族が連れ出すことが無理な場合も考慮して、ビデオ観賞なども取り入れることを検討いただきたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品の購入希望時は、本人の好みを聞いている。自分でお金を所持している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族へ手紙を書いたり、季節の便りが家族から届くこともあり、つながりが途切れないような支援を心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、書道教室での作品が見られるように配置している。リビングで寛ぐ時間と食事時は灯りの照度を切り替える工夫をしている。	レクで作製した花笠が飾られ、また季節が感じられる掲示もある。疑似ペットやメダカの水槽などがあり、生活を楽しむ支援があることが覗えた。畳のエリアには炬燵、ソファー、テーブルと椅子というように、それぞれの居場所がつくれるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一緒にテレビを見て話したり、一人で新聞を読む場所をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には馴染みの家具等を持ち込んでもらい、本人の落ち着ける空間となるよう努めている。	居室の名札は一家族からのプレゼントであり、それぞれが好きな色・花で彩られている。のれんをはじめ、家具やその配置などに其々の個性が表れていて、家族の想いが伝わるとともに、ここでの暮らしの長さと豊かさが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、入浴補助用具の活用、わかりやすい目印、等工夫している。		